

津別町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

津別町は北海道の東部に位置し、人口は4,220人（令和4年11月末現在）で高齢化率は45.36%となっており、近隣の北見市や美幌町とを結ぶ幹線（2路線）、タクシー会社1社（車両2台）と一部一般混乗可能なスクールバス（7路線）が地域公共交通を成している。津別市街地区（凡そ2キロメートル四方）には人口の約8割が居住しているが、運行経路や乗車制限等の理由から、特に高齢者等の移動手段が極めて少なかったため、令和3年3月に策定した「津別町地域公共交通計画」に基づき、市街地区内の公共交通の選択肢を増やし、町民の移動を充実させることを目的として「市街地巡回バス運行事業」と「タクシー利用助成券交付事業」を令和3年12月から新規に実施した。このうち、「市街地巡回バス運行事業」を町民等の生活交通の要として持続させるべく当町の地域交通確保維持事業として位置付けている。

地域公共交通の現況

- ・北海道北見バス（株）
（地域間幹線2路線：単独路線1路線）
- ・スクールバス（津別町）
（7路線：うち一般混乗可能4路線）
- ・タクシー（1社：車両2台）

生活交通確保維持改善計画の目標

利用者数目標 1運行あたり2.5人以上
収支率目標 20%以上

車両取得に係る定量的な目標についても上記と同様

令和4年度事業概要

運行系統名：市街地巡回線
運行区間：津別バスターミナル～中央公民館～津別バスターミナル
運行回数：405回
運賃：200円

協議会開催状況

令和3年 5月17日 第7回協議会を開催
主な協議事項 令和3年度実施予定事業について
令和3年 8月 5日 第8回協議会を開催
主な協議事項 市街地巡回バス運行事業等について
令和4年 2月16日 第9回協議会を開催（書面）
主な協議事項 市街地巡回バス運行事業中間報告
令和4年度実施予定事業について
令和4年 5月30日 第10回協議会を開催
主な協議事項 令和4年度実施予定事業について
令和4年11月29日 第11回協議会を開催
主な協議事項 令和3年度事業評価
令和5年度予定事業について

令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

市街地巡回線の運行開始にあたっては、平成30年夏に利用者の中心となる地区（3つの自治会）と老人クラブ連合会理事会との意見交換会にて得た通院は月に1度か2度などの意見や、令和元年度の実証実験結果（午前中利用が殆ど）を基にして週2日、午前中5便と利用者ニーズを踏まえた運行内容とした。乗車時間を短くするため、乗降の中心となるバスターミナルや病院のバス停を中心として3つのエリアに小分けした運行経路としたことにより、乗りやすくなるよう工夫した。併せて、親しみやすくなるよう車両にはラッピングを施したり、乗降口には自動ステップを装備して高齢者が利用しやすい環境を整えた。

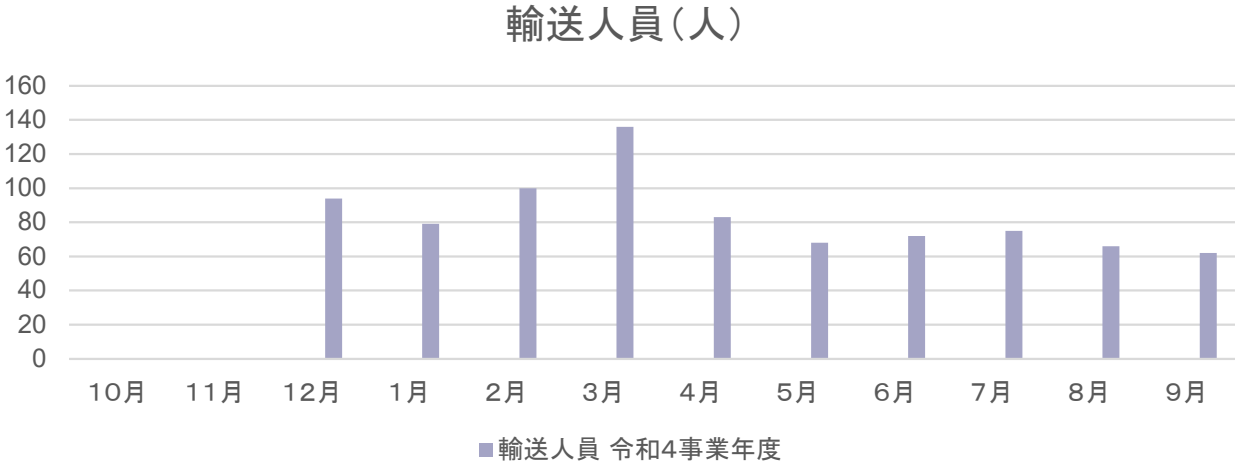
また、「タクシー利用助成券交付事業」と同時に行ったことにより、市街地巡回線との併用を導くことができ、利用する町民の地域公共交通の使い方の選択肢が広がった。

2) 運行系統



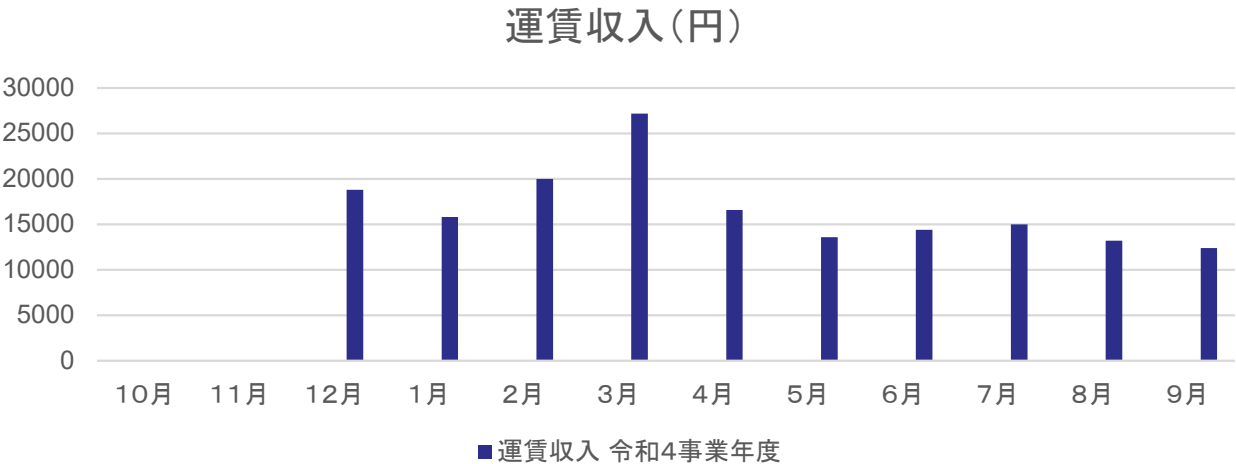
3) 利用実績

年月	輸送人員（人）
	令和4事業年度
12月	94
1月	79
2月	100
3月	136
4月	83
5月	68
6月	72
7月	75
8月	66
9月	62



4) 収入実績

年月	運賃収入（円）
	令和4事業年度
12月	18,800
1月	15,800
2月	20,000
3月	27,200
4月	16,600
5月	13,600
6月	14,400
7月	15,000
8月	13,200
9月	12,400



5) 事業実施の適切性

計画に位置付けたとおり、令和元年の実証実験結果を基にして、毎週火曜日と金曜日に午前中の5便、運行距離13.5kmを市街地巡回線として本格運行開始させることが出来た。

運行にあたっては、町内のタクシー会社に委託するなどの連携が図られ、別に事業を開始した「タクシー利用助成券交付事業」と併せて町内における公共交通の新しい展開のスタートを切ることができた。

6) 目標・効果達成状況

高齢者を中心とした利用となる想定から、目標を輸送人員2.5人／便としたが、それに対し2.06人／便と目標を下回る結果となった。収支率についても、目標20%としていたが10.8%と目標を下回る結果となった。令和元年度の実証実験結果から輸送人員の目標値を2.5人とし、それに伴う収支率が20%という設定をしたが、特に収支率については当初より無理な設定であった。令和5年度に計画の改訂を行う予定であり、輸送人員及び収支率等目標（指標）の見直しを行うこととしている。

車両取得に関して、小型車両（14人定員）1台を運行開始となる令和4年12月に間に合うよう購入することが出来た。

当該車両には、地元在住のデザイナーによるラッピングを施し、冬季間でも目立つ、かわいらしいデザインであり「花バス」の愛称と共に町民には好評を得ている。

7) 事業の今後の改善点

運行初年度であることから根拠となるデータが不十分ではあるものの、利用者数の増加、収支率を上げるため、利用者ニーズとマッチングしているかどうかなど等の調査や研究を進めるため、利用者や利用していない人のアンケート調査や地域意見交換会を継続的に開催し、増便の有無やバス停位置移動等の検討を進めなければならないと考えている。

更に、地域の代表（自治会長・議員など）に寄せられている意見についても協議会で検討することとしている。

本町では現在、複合商業施設が建設中であり、この施設の中にバスターミナルが移転することとなっている。これにより人の動きも変わってくるものと思われ、運行ダイヤや経路について柔軟に改良を加えていくことが必要と考えている。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 目標を達成することができなかったが、このままの利用水準では補助対象外になってしまう可能性もあるため、地域公共交通計画の施策であるアンケート調査や地域との意見交換、また、複合商業施設へのバスターミナルの移転を通じて、利便性向上を図ることに加え、更なる利用促進につながる取組を期待する。